

実践『ペルソナ』通信 (No. 131)

「リップ」に関する調査 Side-*Be*

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、女子大生の「リップ」について、観察調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当：竹内光悦）」のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を研究する研究会です。

※実践『ペルソナ』通信 Side-*Be* とは、写真観察を行い、実態を考察した調査レポートです。

総括

今回の調査を通して、実践女子大学生はツヤ系・ピンク系のリップを好んで使用している人の割合が高いことが分かりました。また、リップの購入時にはブランドや価格よりも「自分の肌に似合う発色」を重視する人が多いことから、パーソナルカラーを意識した色選びが浸透していることが分かりました。SNS が情報源としての影響力を大きく持っている一方で、購入後は自分に合わないと感じても手放さずに使い続ける人が多いことから、実践女子大生は、トレンドを取り入れつつも、一度気に入ったものを大切に使い続ける傾向があるのではないかと考えました。

調査結果のポイント

(1) ピンクの発色のリップを使用している人が多い

今回の調査で実践女子大学生に写真の提供をお願いしたところ、23 人中 11 人がピンクの発色のリップを主に使用していることが分かりました。このことから、女子大学生には自然な血色感を与え、普段のメイクにも取り入れやすいピンク系の色が好まれていると考えられます。また、ピンク以外にもコーラル・オレンジ、ベージュ・ブラウンなど、様々な発色のリップを使用していることが分かりました。

(2) ティントタイプを使用している割合が高い

今回の調査で女子大生に写真の提供をお願いしたところ、練り出して使用するスティックタイプよりも、付属のチップを使って塗るティントタイプのリップを使用している人が多いことが分かりました。このことから、女子大学生は色持ちの良さを重視している傾向があると考えられます。

(3) 保湿機能を重視している人が多い

使用しているリップには、唇にうるおいやツヤを与えるタイプが多く見られました。このことから、女子大学生は発色や色持ちだけでなく、唇の乾燥を防ぎながら使用できる保湿機能も重視していると考えられます。

(4) リップをメイクや服装のアクセントとして取り入れている

写真を見ると、白や黒、グレーなどの落ち着いた色の服装に、ピンク系や赤系のリップを合わせている人が多く見られました。このことから、リップは顔色を明るく見せるだけでなく、メイクや服装全体に華やかさを加えるアクセントとして取り入れられていると考えられます。

調査概要

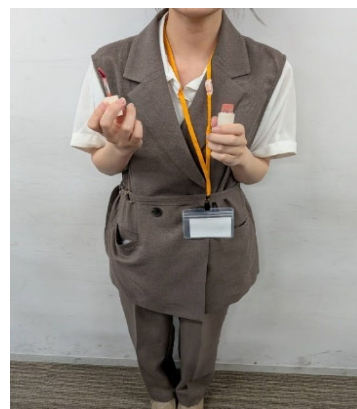
- ・調査対象：実践女子大生（全学年、全学部）
- ・調査方法：フィールドワークによる写真撮影および対象者観察
- ・調査期間：2026年6月～2026年7月
- ・調査場所：実践女子大学渋谷キャンパス・調査協力者の居住内スペース

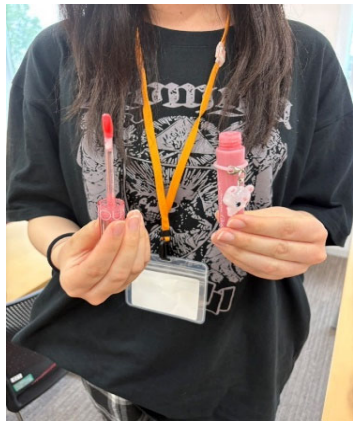
調査担当者

実践『ヘルソナ』研究会 小林礼菜・佐藤彩葉・宮澤瑠莉伽・中沢凜音

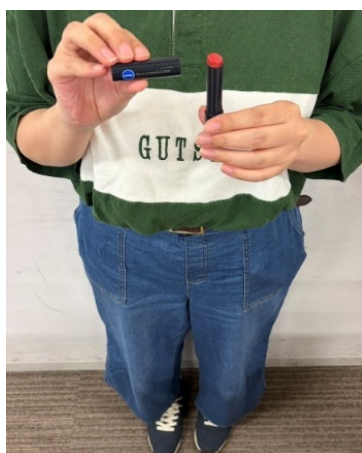
写真

【ピンク】





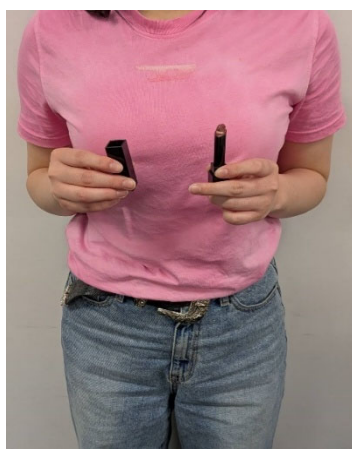
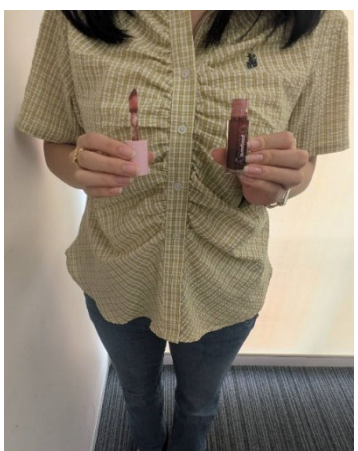
【コーラル・オレンジ】



【レッド】



【ベージュ・ブラウン】



調査後記

今回の調査を通じて、女子大生のリップに対する向き合い方には、実用性とこだわりの両方が強く表れていることが分かりました。特に、ツヤ系・ピンク系という血色感のある仕上がりを好む人が多く、日常的なメイクの中でナチュラルな可愛らしさを演出したいというニーズが強いことが明らかになりました。また、価格帯やドラッグストアでの購入が中心である一方、購入時には「自分の肌に似合う発色」を最も重視しており、手軽さと自分らしさの両立を大切にしている様子がうかがえました。さらに、SNS を情報源として活用する人が非常に多く、購入の意思決定にも大きく影響していることから、リップ選びにおいて SNS が欠かせない存在になっていることも分かりました。一方で、購入したリップが自分に合わないと感じても手放さずに持ち続ける人が多く、少ない予算の中でも一つひとつのアイテムを大切に使い続けようとする姿勢も見受けられました。

下図は、今回の調査を踏まえて生成 AI（Gemini。2026 年 7 月 31 日（金））で出力した、ペルソナのイメージ図です。



今回の調査において、多くの学生の方々に快く調査への回答をしていただいたことで、報告書を作り上げることができました。ご協力いただいた皆様には、この場をお借りして深く御礼申し上げます。今回の調査での経験を今後の調査分析にいかせるよう、メンバー一同精進いたします。